

Newsletterは、東京YWCAの事業活動を皆様にお伝えするための広報紙です。毎回特集で取り上げる事業を中心に、東京YWCAの今をお届けします。

特集

ユース
ボランティア

「いのちを尊び、平和を願い求める青少年を育てる」という基本方針に基づき実施する青少年活動では、青年たちがボランティアとして大きな働きを担っています。また、YWCAではユースボランティアが活躍できるように様々なトレーニングを実施しています。

“みんなが笑顔になる活動のために、

東京YWCAの各拠点と野尻キャンプ場には、様々な文化的社会的背景をもつ子どもたちが集まってきます。1日の体験活動・宿泊を伴うもの、月1回の活動・年1回のキャンプ等に子どもたちが参加しています。

自分の余暇を誰かのために提供してボランティア活動してみると、サークルやアルバイトとは異なる出会いや体験が得られます。新しい世界、子どもたちが待っています。

ボランティアを経験することで 身につくレジリエンス

「子どもの発達と心理」「リスクマネジメント」「スペシャルニーズのある子どもの

理解」「車イス実体験と介助体験」「生活とキャンプソング」「チャイルドプロテクション」「衛生と野外料理」等、講義から実践まで、様々なトレーニングをします。基本的な知識を得て技術を身に付け、自信をもって子どもと接することができます。ボランティア体験をすることで、自分を必要とする人がいること、誰かの役にたてた喜び、自分よりも弱い立場にいる子どもを守ることや責任を持つことを学ぶ機会となっています。誰かを支援するためのトレーニングから、自分の世界が広がることもあります。また、得手不得手を知り、自分を内省する場ともなっています。こうして身に付けた臨機応変に対応し諦めない力(レジリエンス)は、社会

から求められる能力で、社会人となってからも役立ちます。

第三の大人が子どもと関わる ことで子どもが輝く

ユースボランティアは、子どもたちにとって毎日の生活では出会うことのない大人です。自然の不思議や新しいものごとに接し、一緒に感動したり驚いたりしながら、子どもたちから感情や言葉を引き出してくれます。「ありのままの自分」でいいのだと感じる機会となり、潜在的な能力が拓けることがあります。自分を認めてくれて、何でもできるユースの姿は、子どもにとって「将来こうなりたい」というロールモデルになっていきます。



ユースボランティアが活躍

頼りになるユースボランティアは子どもの憧れ

教育や心理を学ぶ学生だけでなく、子どもの活動に関心をもつ青年を、ボランティアで募集しています。水泳やアーチェリー、調理補助など自分の得意分野を活かした役割もあります。一番身近な、お兄

さん・お姉さんのような存在として、子どもたちに寄り添う活動です。少しでも関心のある方は、東京YWCAに連絡してオリエンテーションに参加、実際の活動を見に来てください!



子どもの挑戦を手助けします



夏季・冬季の活動

- ・サマーキャンプ
- ・スキーキャンプ



年間を通した活動

- ・子ども会 青少年活動
- ・みんなで楽しむアウトドアプログラム
- ・発達に遅れや偏りのある女兒の親子水泳

- ・発達に障がいや課題を持つ子どもの体験活動
- ・障がい児のきょうだいの活動
- ・外国にルーツをもつ子どもの日本語・学習支援

ボランティアのための養成プログラム



仲間と共に学び、経験を共有します

チャイルドプロテクションって聞いたことある?

セクハラ・パワハラ、という言葉が一般的に認識されるようになりましたが、子どもたちや多様な人と活動する場面で、相手に嫌な思いをさせないために何に気をつけたらいいでしょうか。「子どもの権利条約」や「児童虐待防止法」などの

法律について、基本的な知識や子どもを取り巻く社会事情を学び、実際の場面でのどのような事が起こり得るか、また活動中に対応に迷った事などの事例を挙げながら、適した言葉や行動を考えます。この講座は、あらゆるハラスメントから、子どもを守ると同時に、加害者とならないようにボランティア自身を守るための講座でもあるのです。

専門スタッフによるトレーニング

 田中教博さん(キッチンヘルパー/健康栄養学科4年)

大学の先生から紹介してもらいました。管理栄養士を目指していて、食に関わることと子どもに関わる活動がしたかったので、全て当てはまるのがキャンプのキッチンヘルパーでした。調理専門ス



幅広く活躍の場があります

タッフの指導の元、調理技術だけでなく、時間に間に合わせる工夫や子どもに合わせた献立作りを学ぶことができます。今はグループリーダーや、アウトドアプログラムのリーダーとしても頑張っています。

大学時代の経験が仕事に活きる

 高橋菜緒美さん(グループリーダー・保健リーダー/小学校養護教諭)

大学時代に養護教諭を目指していたので、子どもとの接し方を楽しく学びたいと思い、子ども会に参加したのがきっかけです。活動前のトレーニングはたくさんの学びと心の準備になります。その学



リーダー自身楽しむことが大切!

びは今の仕事でも活かされ、生徒への寄り添い方、遠足や宿泊行事での危機管理の軸となっています。また、YWCAの活動は年齢や職業、出身が異なる様々な人と出会える素敵な場所だと思っています。

ご関心のある方はどうぞお問い合わせください 説明会の日程はWebサイトをご覧ください

青少年育成事業部

 03-3293-5466

 petau@tokyo.ywca.or.jp

 <http://www.tokyo.ywca.or.jp/child/camp/volunteer/>





写真展 第五福竜丸と世界の核被害

原水爆のない未来と平和について考える 世界のヒバクシャに心を留める展示会

11/13～12/15に、東京YWCA会館1階ロビーで開催しました。1954年、米国の水爆実験によりビキニ環礁で被曝した第五福竜丸に関して、乗組員の放射線障害、無線長久保山愛吉さんの闘病と死、太平洋の汚染地図など20点にわたり悲惨さを伝えるパネルが並びました。また、1978年のマーシャル諸島の取材以降、世界の核被害について、40年余にわたりその爪痕を撮り続けるフォトジャーナリスト、豊崎博光さんの写真も多数展示しました。



写真展の感想メッセージが多くの方から寄せられました

外国にルーツのある子ども たちが生活体験キャンプ!

日本語・学習支援「いちごの部屋」 親元を離れ日本語で遊び生活しました

普段は武蔵野センターで勉強をしている「いちごの部屋」ですが、夏休みに、東京YWCA野尻キャンプ場に行きました。来日したばかりの子も含めて6人が森の中でたくさんの植物や生き物を観察し、湖で遊び、アーチェリーにも挑戦! 食事や掃除もみんなで協力しました。20代から80代の支援者とたくさん笑って過ごした3日間。キャンプ後、日本語が急激に上達し、幼稚園や学校の先生を驚かせました。株式会社三菱商事、(公財)倶進会のご支援に感謝いたします。



森の中でたくさん観察した後は、生物図鑑に夢中になりました

障がい児「きょうだいの会」 活動紹介をしてきました

きょうだい児が主人公になれる瞬間、 仲間と安心して過ごせる空間を大切に!

10月31日、板橋区介護者休業事業の一環で行われる、年に一度の障がい児者家族のランチ交流会で、異色の活動として取り上げていただきました。子育てに悩みながら切実な思いで立ち上げから関わってきたお母さんと、自身もきょうだい児である大学生リーダーが日頃の活動を紹介。経験に基づく言葉に、涙する参加者の姿もありました。



100人以上が聞き入りました

アーカイブプロジェクト

1900年代からの歴史資料をデジタル化

史料保存のために、2月末現在、のべ93件、513,181円のご寄付を頂戴しています。引き続きご協力をお願いします。

● 東日本大震災被災者支援事業 8年たっても戻らない日常

福島市で震災以降、日常の写真を撮りつづけている県立高校の美術教師で写真家の赤城修司さんを迎え、写真展とお話を聞く会を東京YWCA会館で行いました。先生をお迎えするのは5年ぶりです。67万枚の中から2018年1月から12月の写真を中心に展示、伺いました。校庭

に埋められていた除染の土をつめた大袋を再び掘り出して仮置き場に運ぶ写真、土が削られ夏でも草一本ない山の斜面、除染作業が日常化していることの違和感を先生は淡々と話し続けられました。「1枚の写真が語る事実を重く受け止めました」と参加者から感想が届いています。



赤城先生(右端)の話熱心に聞く参加者

